



鶴の便り 鶴の便り

夕鶴の里資料館報

平成24年7月20日

第19号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

入館者増の兆し

平成二十四年度も三ヶ月が過ぎた。今年度は、四月に福島からツアーのお客様がほぼ毎日来館になり、夕鶴の里駐車場には頻繁に大型バスが入りした。

五月は、フリーのお客様が多く来館した他、幼稚園の親子遠足、小学校の社会科見学などで賑わった。

六月は、南陽市内外、県外からも多くの団体様が来館し、また、市内の小学校の社会科見学、その他昨年に引き続き仙台市から五校の修学旅行生が来館された。六月中旬以降は

さくらんぼの最盛期に伴い、小グループ、ご家族連れ、ご夫婦での来館が目立ち、土、日などは語り部さんも五回以上語るなど大忙しでした。また、お客様からも、「語りがすばらしかった」「資料館も良かった」などと嬉しい感想をいただきました。

～3ヶ月間の入館者数～

	23年度	24年度	前年比
4月入館者	150	3,357	2,238%
5月入館者	468	709	151%
6月入館者	1,557	1,658	106%
合計	2,175	5,724	263%

たすきをこないだ

第十回

民話の語り駅伝

去る、七月八日(日)、夕鶴の里恒例のイベントである「民話の語り駅伝」が、夕鶴の里語り部ホールで開催されました。

夕鶴の里友の会主催(渡邊記美子会長)で今年第十回を迎えました。

渡邊会長の挨拶で開演し、会長から第一区の中川小学校児童五人の「わらべうた」にたすきが渡されました。

その後、中川小学校五年の渡辺琴葉さんにたすきが渡され「和尚と小僧」の語りが披露されました。次々とたすきがリレーされていき、往路九人の語りが終わる、来場された方々は、それぞれの個性あふれた語りによって拍手を送っていました。復路のトツバッターでは、友の会の紙芝居「牛方と山姥」で、モノの大切さを学び、改めて紙芝居のすばらしさに感動しました。

紙芝居の後には、民話会ゆうづるの戸田節子さんの「泥棒の手」の語りから順々と八名にたすきがつながり、アンカーは友の会の

島貫貞子さんが「食わず女房」を語り、第十回語り駅伝が終了しました。

今年も語り駅伝に多くのファンの方が訪れ、民話の語り魅了されておりました。

当日の出演者は次の方々です。ありがとうございました。

【往路】

- 第一区 わらべうた(境あすか・渡辺琴葉・安部うらら・山口姫華・富樫琴美) ↓
- 第二区 渡辺琴葉 ↓
- 第三区 佐々木恵子 ↓
- 第四区 安藤悦弘 ↓
- 第五区 境あすか ↓
- 第六区 柴崎ぬい ↓
- 第七区 小関トミ子 ↓
- 第八区 小嶋信子 ↓
- 第九区 朝倉喜美子 ↓
- 第十区 長沢登代

【復路】

- 第十一区 紙芝居(友の会) ↓
- 第十二区 戸田節子 ↓
- 第十三区 三井絢太 ↓
- 第十四区 菅野敏子 ↓
- 第十五区 安部晶子 ↓
- 第十六区 高橋愛 ↓
- 第十七区 柏倉節子 ↓
- 第十八区 渡部秀丈 ↓
- 第十九区 伊藤進司 ↓
- 第二十区 島貫貞子



牛方と山姥

田植え前に牛で水の入った田をならすので、牛は農家に一頭は飼っていたものである。

山手の村では海岸の漁場で干魚を買ってくるが、化物が追いかけてきて、「魚一本呉れ」というので、干魚をやるも、ガリガリと食べて、「もう一本呉れ」と、牛の背につんだ魚を食べ終えると、「その牛も呉れ」と、むしやむしやと食べてしまった。

「お前も食いたい」というので、牛方は逃げに逃げて、山の一軒家を見つけて、天井にかくれていると、化物がやってきて、「今日は腹いっぱい食べたから、甘酒でも温めて飲んで眠ろうか」と鍋を囲炉裏にかけて、居眠りをはじめたので、牛方は屋根の麦藁を抜いて鍋の甘酒を飲んでしまった。

「あれあれ、火の神さまが飲んだのなら、仕方ない」といって、その大鍋の中に入って化物はぐうぐう眠ってしまった。
牛方は、天井から降りてきて、大きな蓋の上に大石をのせ、下から火をどんどんと焚いたので、化物は死んでしまった。その化物とは何なんだろうと、大鍋の蓋

をとつてみると、買ったものの半分も使わないで捨ててしまったものとか、まだまだ使えるものを捨ててしまったものなどが、大鍋の中につまっていたという。
そうした無駄を集めて、化物ができあがったということであろうか。モノは大切しなければならぬということを教えた民話なのだろう。

夕鶴の里 研究員 武田正



紙芝居「牛方と山姥」より

「まゆの里事業」
「染め織り講習会」が
スタートしました

「紅花染めのオリジナル

テーブルクロスをつくろう」

夕鶴の里では、今年「まゆの里」事業に取り組む事になり、

染め織り講習会が、

第一回 七月二十二日(日)

第二回 九月十六日(日)

第三回 十月十三日(土)

第四回 十一月二十五日(日)
の4回コースでスタートしました。

6月初旬から蚕を飼育し、蚕がまゆになり、繭から紡いだ糸を紅花で染色、卓上織機でオリジナルテーブルクロスを作るという内容です。

受講生は一般公募し定員の二〇名が集まりました。

受講生は、普段体験できないことを体験しながら、世界に一つだけの「オリジナルテーブルクロス」の完成に今から心ときめかせている様子でした。



＝語り部養成講座＝

《中間公開講座》

日時：8月4日(土)午後1時30分
会場：夕鶴の里 語り部ホール
内容：受講生・民話会ゆうづるの語り
入場料：無料

◇受講生が練習の成果を中間発表します！
ご声援よろしくお願ひします！！

「南陽の文化を紡ぐ
心を伝える」
ふるさと講座

【会場】夕鶴の里 語り部の館

第一回 八月十九日(日)

午前十時

「南陽の偉人について」

講師・南陽市史編さん室

第二回 九月九日(日)

午前十時

「南陽の民話について
再び考える」

講師・夕鶴の里専門研究員
武田正氏

【会場】結城豊太郎記念館 臨雲文庫

第三回 十月二十八(日)

午後三時

「激動の日本を動かした
結城豊太郎と安岡正篤」

講師・安岡正篤記念館副理事長
荒井桂氏

第四回 十一月十七日(土)

午前十時

「民話の語りから学ぶ」

※施設活用文化講座と合同
講師・民話会ゆうづる
多勢久美子氏

※参加費・一講座 三〇〇円

(全て受講の場合は千円)

◇申し込み 結城豊太郎記念館

TEL(四三)六八〇二

夕鶴の里

TEL(四七)五八〇〇